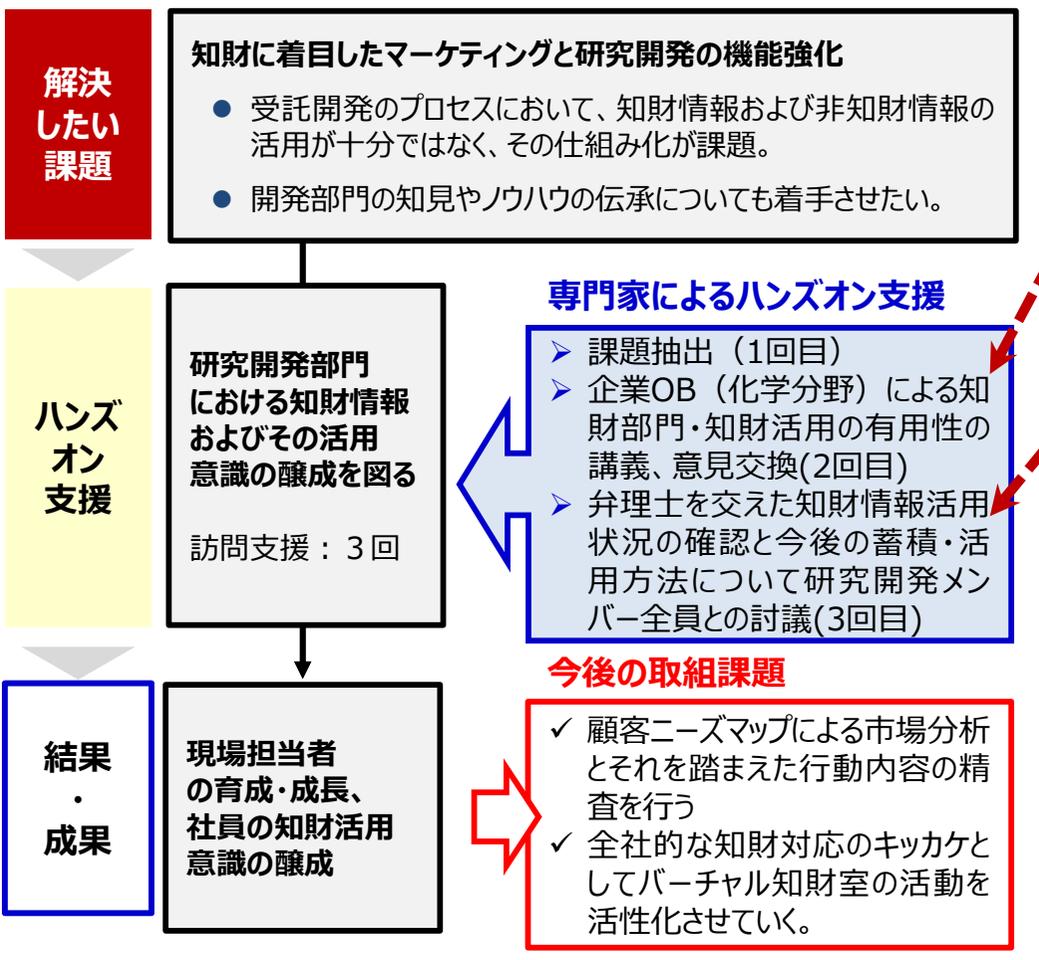


事例5：高松油脂株式会社（知財情報の部門間共有（バーチャル知財部）による開発力強化）

■ 知的財産経営実践の概要



■ 取組の詳細

- 支援コーディネーターおよび企業OBによる「バーチャル知財部」を想定した検討の提案を受け、知財担当者を中心に研究開発部門担当者を交えた検討体制をつくり、自社技術の強み、市場動向、顧客ターゲットおよび顧客ニーズの関係を見える化に向けた知財情報の重要性について共有した。
- 知財情報活用について、研究開発部門担当者に対する現状調査を行い、知財情報の蓄積・活用方法について、今後運用可能な方法について検討に着手。専門家（弁理士）による知財情報管理の重要性や必要となる対応事項を助言。
- 受託開発中心の事業のみならず、今後の商品提案力・開発力を高めることを目指すとともに、各研究員が独自に管理してきた知見やノウハウを蓄積・共有させ、継承していくための考え方や手法について検討に着手。



■ 企業の声

専門家からの指摘や助言は、当社の課題として重要な事項であり、多くの気づきを得ることができた。研究開発部門としての解決を図っていくことのみならず、営業部門や経営部門との共有事項として深掘りしていきたい。知財総合支援窓口を有効活用していく方法についても助言を得たことから、今後も課題解決に向け、着実に取り組んでいきたいと考える。

■ 企業概要

業種	界面活性剤、合成樹脂、工業薬品の開発・製造販売				
住所	石川県能美市	URL	https://www.takamatsuyusi.co.jp/		
設立	1952年4月	従業員数	52人	資本金	3,300万円

■ 支援専門家（回数）

支援コーディネーター
経営コンサルタント（3）
同行専門家
企業OB（1）
弁理士（1）